



# きばっちょいもんさ

—鹿児島の企業・顔・人・心—

## シラスと私

楠 ビザン 開発 大迫 繁

私がシラスに関係したのは昭和50年ごろだったと思います。当時私は或る住宅会社に勤務して居ました。そのために住宅部材の製造に地元の資源であるシラスを多分に利用する方法はないものか、と若さの情熱におされ独り善がりの夢を抱きながら、及ばぬ恋とは露知らず片足、片手から両手、両足へと次第に深みにはいって行きました。当時日本の経済状況は成長期の最中で、企業も何をやっても良かった時期だったようです。

最初選んだテーマは軽量コンクリートでしたが、これについては、既に鹿児島県工業試験場（現在の工業技術センター）、鹿児島大学、第一工大等の先発研究者の所へ出かけて行き遠慮、会釈なくご相談ご指導を拝受したものでした。お陰様で技術的な面では部材製作、現場施工等何ら支障なく進展出来そうな所までできたのですが、販売地域が離島を含む九州一円の為に部材の運搬、シラスの逆輸送等により価格のバランスが崩れてしまい失敗に終わりました。ここで企業の開発は売れる商品だという鉄則を知らされました。

以後今日まで約20年紆余曲折の道を辿りながら何とか生きて来たようです。振り返ってみますと商品化しているものは次の様な物です。

- ① 耐火被膜材の原料：シラス微粉（0.6mm以下）をビルの排水管（ビニールパイプ）の表面を耐火材として被膜する原料として納材しています。特徴は軽量、耐火収縮性がないということです。
- ② 造粒セラミックス：シラス微粉（平均27 $\mu$ m程度）を主原料として2mm～15mm程度に造粒し1100℃位で焼成したもので、水の浄化の濾過材に使用されて居ます。
- ③ 人工アカスリ：シラス微粉を主原料として任意の形状に成型されたものを1000℃位で焼成した物。

以上が現在までのシラスとの取り組みをしたものです。

今後の課題を何か無いものかと考えてみればシラスは誠に面白い未知の魅力を沢山もった、身近にある資源だと思います。然し私どもには知恵と資力が足りません。思考錯誤を繰り返しながら悶々とした日時を過ごしていました。同じ課題について関心を持った人たちのグループとの出会いが出来れば、素晴らしい交流ができるのではと思っておりましたが、丁度この時期（平成初年の頃）工業倶楽部主催の異業種交流会に参加させてもらい色々な方々と会合を深めて行きました。また、工業技術センター御支援の“鹿児島ハイテク研究会”は正に意を得た研究会だと有り難く参加させて貰いました。私共はシラス建材部会に加入させて貰い同志の方々と懇談、協議しながらシラス利用の商品化へ向けて模索試行を重ね、努力したいと思っております。県工業技術センター皆様始め関係機関の方々の暖かい御支援、御指導を重ね重ねお願いいたします。

### プロフィール

生年月日：昭和2年7月11日

出身地：鹿児島市

血液型：A型

モットー：日々努力

趣味：瞑想